

# ボールの特性レポート

## BALL REPORT



ボール名	D & C SA		投球者	徳江 和則		センター	平和島スターボウル	
RG	2.500	△RG	0.054	●ピン	★PAP	✕CG	■バランスホール	

**テストボール**

フレアーの幅  インチ

PAPからピンとの距離  インチ

表面加工

箱出し状態

加工

ペーパー

ポリッシュ

研磨剤

番

**比較対照ボール：ベンデッタ 357 マグナム**

フレアーの幅  インチ

PAPからピンとの距離  インチ

表面加工

箱出し状態

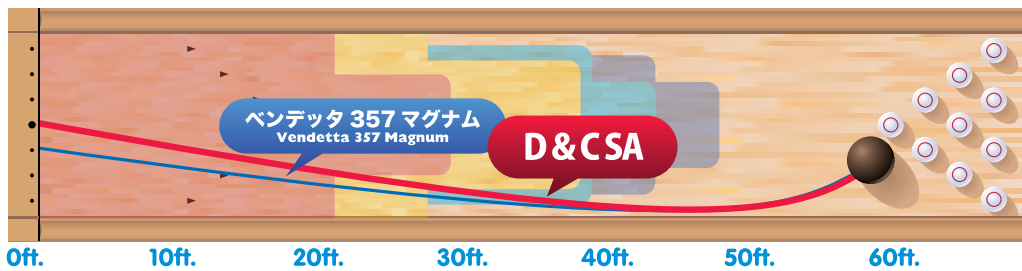
加工

ペーパー

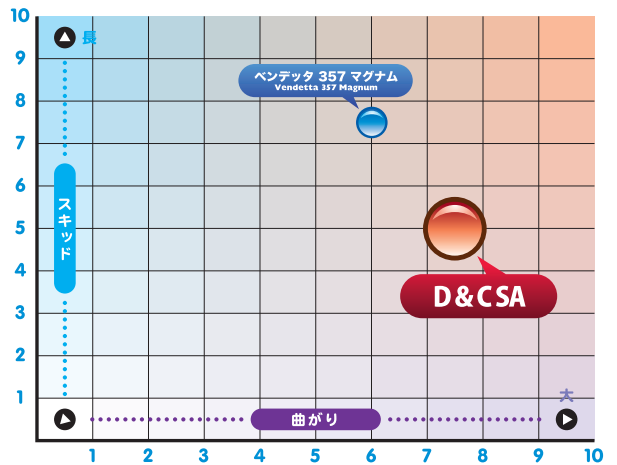
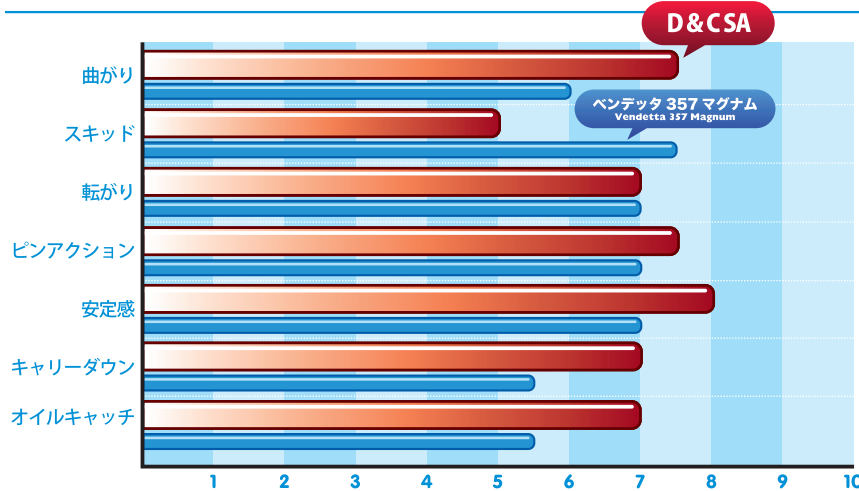
ポリッシュ

研磨剤

番



- ヘビー
- ミディアム
- ライト
- パフ



レーンコンディション	Light Oil	Light to Medium	Medium Oil	Medium to Heavy	Heavy Oil	バックエンドリアクション	Smooth	Smooth to Arc	Arc	Arc to Sharp	Sharp Angle	レンジス	Early Roll	Early to Med	Med-Lane	Med to Late	Late Roll
------------	-----------	-----------------	------------	-----------------	-----------	--------------	--------	---------------	-----	--------------	-------------	------	------------	--------------	----------	-------------	-----------

**ボールの評価**

以前のダイノタンのボールは、カバーストック特性からミディアムコンディションを中心に使用できるボールがほとんどでありました。しかし、ベンデッタ 44 マグナムからカバーストックをコロムビア社の工場、生産ラインに載せることができることになったので、コロムビア社の企業秘密も同時に受けられることになり、完売に至ったスレッシュホールドと同様、今後ダイノタンのボールから目が離せなくなりました。ダイノタン社はコロムビア社のコアのテクノロジーに魅力を感じており、コロムビア社は新たな可能性を求めタグを組み、今回、そのダイノタンのカバーストックとコロムビアのコアが融合し、このD & C SAが生まれました。投球した感じはSA(ストロングアーク)という名に答えるよう、ミッドエリアでの動き始めを感じます。このD & C SAの良いところはカバーストックが強すぎる訳でもなく、弱い訳でもなく非常にバランスが取れていて、幅広いタイプの方に安定した曲がり、扱いやすさを感じて頂けるボールだということです。早目から起き上がろうとするボールはピンヒットまでしなやかにストロークさせるのが難しく、タレてしまったり動きがボケてしまったりしてしまいます。しかし、このボールは起き上がりから動き幅が読みやすく、ピンヒットまでその動きを持続できるので、素直に扱いやすさを感じさせてくれるボールでしょう。最近主流のバックエンドが過激に動きすぎるボールに扱いづらさを感じていて、扱いやすく曲がりを出したい方には是非試したいいただきたいボールです。

**特記事項** 扱いやすさと曲がり求めたSAか! 走り切れを求め、攻撃的にラインを攻めるSSか! 両社のコラボレーションの性能をご堪能ください。